



ベトナム：3年間正規留学で学ぶホーチミンからの留学生5名

使用したことのない生徒も入学して来ます。これは家庭内での第一言語が日本語では無く、学習言語も日本語で無い生徒に一部見受けられる現象です。日本国籍を持ち、将来は日本での進学、就職を生徒本人も、そして保護者も希望している場合、国語では無く第二言語としての日本語指導を受けることの出来る教育環境や、日本独自の生活習慣、人的環境は重要です。3年間に亘っての本校の教育並びに生活環境は、彼らに取ってかけがえの無いものと言えるでしょう。

ところで、3年間正規留学生・帰国生の特色の一つとして、明德義塾卒業までに三言語を習得する生徒を数多く輩出することがあげられます。これは明德義塾入学時に既に二言語を身に付けている生徒達、そして日本語コースではなく、英語コースや中国語コースに入学してくる生徒達（入学時に一定の日本語力が必要）が達成します。本年度卒業するインドネシアからの留学生バンバン君は、母国ではインターナショナルスクールで学んでいた為、本校に入学した時点でインドネシア語と高度な英語を身に付けていました。その為、日本語を第三言語として学ぶ目的で入学して来たことになります。日本の大学への進学も決まっている彼にとり、後はインドネシア語、英語、日本語の三言語、それと大学で学ぶ専門知識、そして彼が身に付けているインドネシアと日本のカルチャーを、日本生まれの私たちには無い彼独自のアドバンテージとして活用し、希望の仕事に就くことではないでしょうか。

## 高校1年間・1年半留学生・帰国生

北米からの1年間留学生・帰国生とは異なり、高校3年間正規留学生・帰国生と同様、このプログラムに参加する生徒の日本語を学ぶ目的は、明德義塾高校を卒業し日本の大学

への進学、そして高度な日本語と専門知識を活かしての就職です。1年間・1年半留学生・帰国生は本校の高校2年、若しくは3年に編入する形となります。3年間コースと異なり在学期間が短い為、クラブ活動よりも学習を優先して指導をしています。

以前は日本国籍を持たない外国籍の留学生が中心でしたが、近年日本語を第一言語としない日本国籍の帰国生も編入して来るようになりました。

## 在日外国人子女

北米に赴任した保護者に帯同され、現地校で学ぶ生徒が直面するのと同じように、いやそれ以上に困難な問題に在日外国人子女は直面しています。もちろん、それは言語の問題です。ESL（English as a second language）のクラスが日本人の生徒が学ぶ殆どの現地校にある北米の教育環境とは異なり、日本では日本語を第二言語として学ぶことの出来る高校は稀にしかありません。英語は程度の差こそあれ殆どの在日外国人子女に学習経験がありますが、日本語は来日して初めて日本の学校で学ぶ生徒が大多数です。通常日本の高校では日本語を母語としている生徒を対象として国語の授業を行うため、国語の授業は第二言語としての日本語を学ぶ授業としては適しません。彼ら在日外国人子女が明德義塾で日本語を学ぶ目的は、日本語を第二言語として学ぶと同時に日本人学生と同じ高校の教育過程を学ぶことと言えるでしょう。

## まとめ

明德義塾で日本語教育に関わる前は、日本で生まれ、日本語を母語としている私にとって、日本語を学ぶ目的は外国人固有のもの、「日本の事をより知りたい、日本人と日本語で交流をしたい、仕事に役立てたい」と言った単純なものだと思っていました。しかし日本語を学ぶ目的は今やそんな単純なものではなく、生徒一人ひとりの家庭環境、生活環境、学習環境、そして生徒と保護者の将来の夢や展望により多様に存在するものであることに気づかされました。

終わりにになりましたが、明德義塾日本語コースの役割とは何でしょうか。それは第二言語としての日本語を学ぶ生徒の目的は多様化してきており、彼らのニーズに応えることであり、生徒と保護者の期待に添えるよう、教育の内容を更に充実してゆくことだと考えます。



このエッセイで紹介されている、国内生以外の生徒の多様性と人数が、明德義塾の教育の特徴を形成しています。そして、それが急激に変わる日本、いやグローバルな教育の象徴です。

生徒たちは、学習言語だけではなく、多文化共生の知識とスキルを日々身につけています。これは、日本の教育の最前線です。

### 明德義塾中学校・高等学校

〒785-0195 高知県須崎市浦ノ内下中山 160

TEL: 088-856-1211 (代) FAX: 088-856-3214

HP: www.meitoku-gijuku.ed.jp E-mail: info@meitoku-gijuku.ed.jp